



はらき だに ごらん

地元の食と生産者をご紹介

Vol.3

照沼勝一商店 farm



安心安全の農業を追求する「照沼勝一商店」の照沼勝浩社長。

風評被害に立ち向かい 安心安全の農作物を追求

東海村でサツマイモの生産や干し芋「雪の華」の加工生産を手掛ける「照沼勝一商店」。原子力施設が立地する同村はその恩恵とともに代償も大きく、同社はこれまでさまざまな風評被害に悩まされてきたし

た。そのような状況のなか、「東海村で農業を続けているからこそその宿命です」とこの地で農業を続けていく覚悟を決めた照沼さんは、「風評被害を一切受けたい、圧倒的な商品価値を持った農作物の生産を目指しました。それが、化学農薬や化学肥料を使用しない農法です。」

とはいえ、すべてが順調にはいかず、一時はサツマイモの収穫量がピーク時の2割にまで減少した年もあったそうです。それでも、無農薬無肥料を貫き、たい肥や土壌の改良を重ね、現在では収穫量も回復傾向にあります。

さらに、2007年からは同志と「茨城県最高品質農作物研究会」を設立し、分析会社を通して、土壌、作物体、水質、たい肥などの分析も実施。この自然農法と科学的分析に裏付けされた干し芋は、一般のそれよりも色が淡く、サツマイモ本来の甘さが際立つと大好評です。

また、干し芋を使用したプリンや



東海村にある「たい肥場」。ここで“完熟”になるまで、



たい肥場の畑では無農薬無肥料の

アイスクリームなどの商品開発のほか、タンザニアに現地法人を立ち上げ、アフリカで干し芋事業を展開中です。
「消費者の健康に貢献できる農作物を作るために、できることはすべてやってみよう。照沼さんの揺るぎない信念のもと、世界に通用する安心安全の農作物の追求はこれからも続きます。」